

大震災 避難所に人が殺到！ その時あなたは？

2013.04 発行

製作：女性の視点でつくるかわさき防災プロジェクト
発行：川崎市男女共同参画センター（愛称：すくらむ21）

1. 避難所運営ゲーム「HUG」体験！

さる1月23日(木)、川崎市男女共同参画センター(すくらむ21)第1・2研修室にて避難所運営の机上ゲーム、「HUG」の講座が行われました。

川崎市内に住む男女38名が参加したこの講座では、参加者が互いに協力し合いながら避難所運営の模擬体験をしました。ゲーム中での意見交換や振り返りなどを通して、災害に対する意識をさらに高め、地域での活動に役立てたいという思いを新たにすることができました。

避難所運営を模擬体験する「HUG」

「HUG」は、近年にも起こりうると思われる東海地震への対策として静岡県職員が2007年(平成19年)に開発したゲームです。

避難所運営のシュミレーションを体験するもので、短時間に多くの避難者を避難所施設内に配置していく本番さながらの内容です。

現在では、静岡県内をはじめ、県外の多くの自治体もこの疑似体験ゲームを用いた防災講座などを行っています。

「H (hinanzyo 避難所)」「U (unei 運営)」「G (game ゲーム)」の頭文字から命名。英語の「hug (抱きしめる)」より、避難者を優しく受け入れるというイメージもあります。



お知らせ

避難所運営ガイド
できました！



地域防災計画などで追記された『男女共同参画の視点』とは何か？を被災者の体験事例などを盛り込んだ解説ガイドができました。すくらむ21で現在配布中。(2000部/4月発行)市の避難所運営マニュアルと併せて活用頂けます。ホームページにも全ページ公開中です。

【問合せ先】

川崎市男女共同参画センター (〒213-0001 川崎市高津区溝口2-20-1)
TEL: 044(813)0808 / FAX: 044(813)0864
ホームページ: <http://www.scrum21.or.jp>

HUGの体験からわかることとその効果

当日の講座は、中原区保健所の地域福祉課、水野亮子課長を講師に招き、午前中に起きた川崎市直下型地震、震度6強により川崎市のある小学校で避難所を開設、という設定で始まりました。

「〇〇××さん、74歳、夫。持病あり。〇〇△△さん、妻、70歳」

避難者に見立てたカードが次々読み上げられ、5-6名ずつのグループ(6グループ)に分かれた参加者は、カードを適切な場所に配置していきます。異なる背景を持った避難者に配慮しながら、変化していく気象や想定外の事態へも対応していかななくてはなりません。約60分間、「即断即決」が要求されてゲームが進行していきました。そして、ゲーム直後には活発な意見が交わされました。

実は、ゲームの模範解答はないそうです。「結果は参加者によって変わります。それよりも、経験すること、また繰り返し経験することで、後で役に立ちます。」と、最後に講師からの話しがあり、和やかなうちに閉講しました。

講師：水野亮子氏（中原区役所 地域保健福祉課 担当課長）より一言

被災地の支援を通じて気づいたことも伝えていかないと風化してしまいます。「避難所運営を体験することで、地域にどのような人がいるのかを知る、そしてどのような対応を寸時に判断するかが訓練になる」とこのゲームを通して気づき行動してもらえたら、とてもよい機会となると思います。



参加者の感想

- *実際に災害が起こったとき、どれほどパニックになるのか事前に知ることができた。
- *知らない人同士でできたのが、リアルにとらえられて良かった。
- *カードが多すぎて対応しきれなかった。考えるのに2時間ほどほしかった。
- *実際に体育館で経験することが必要だと痛感しました。訓練は大切だと思いました。

2. 平塚パワーズさんとの交流で学んだこと

2014年2月10日(月)に平塚市松原公民館(会議室)にて

平塚パワーズさんと交流会を開催しました。そこで学んだことは「防災意識は、対象年齢によって大きな違いが生じるため、活動依頼の度に、内容は変えずに目線を変える。」「大切な事は、参加メンバーが打ち合わせをして、シミュレーションを繰り返すこと。」「自分の命は自分で守る。家族も守る。」「備え中心から、自分の命を守り、周囲の人と協調してやっていく方



法を考え行動していきたい…」など、平塚パワーズの菅野会長、木村副会長、役員、6地区役員の方の活動を通じての地道な取り組みに刺激を受けましたので、ご紹介します。

女性だけの防災ボランティア組織「平塚パワーズ」

1995年1月に発生した阪神・淡路大震災。平塚市は同年度から、災害に強いまちづくりを進めようと、主婦を対象とした「女性防災リーダー育成研修」(2005年度から「女性防災コミュニティ講座」に名称変更)を開講しました。

研修は、防災に関する知識を深める座学と、消火器の使い方や応急手当について学ぶ実践講座で構成されたカリキュラムを約1年間かけて学ぶもので、第1期の修了生30人の女性たちが「もっと防災の知識や技術を深め、地域の役に立ちたい」と設立した団体が「平塚パワーズ」です。

発足から17年、段ボールを利用した簡易トイレや、バスタオルに下着や靴下を縫い付けた防災ずきんなど、お金をかけず身近にある物を使った災害グッズを考案したり、学校や自治会に出向いて防災を呼びかけたりと、地域に密着した活動を継続しており、今や、平塚になくはない防災リーダーとなり、「災害時、まず自分の命を守り、次に家族、そして地域を守る」という当初からのテーマを基本に、生活に密着した視点を生かした防災・減災技術に日々、磨きをかけています。

▼ 「平塚パワーズ」が取り扱うテーマ

日々の暮らしの中で培われたきめ細やかな視点を生かし、災害時に必要な備品の開発を手掛けているのも、平塚パワーズの特徴です。

例えば、段ボールを使った簡易トイレ。大人が座っても安定するよう強度をもたせ、かぶせたビニール袋の中に用を足す仕組みです。阪神・淡路大震災の際、多くの女性が避難所でのトイレで苦労したという話を聞き、会員がアイデアを持ち寄り試作を重ね、約1年かけて形にしました。中に紙おむつやペット用の砂を入れることで、臭いを抑えられるようになっています。

▼ 避難所開設訓練の際の注意点 ~次のようなアドバイスをいただきました~

- 持病のある人・高齢者・未就学児のいる家族の受け入れ時の配慮を決める。
- 避難所へ行ったからといって全て解決するわけではなく一時的なものということ、わかってもらう。
- 学校を早期に再開できるような体制態勢を考える。(学校との話し合いが必要)

「平塚パワーズ」の活動を体験!

★ダンボールトイレ作り

- ・座面にプチプチシートを張るとすわっても痛くない。
- ・内箱は、おもて・裏ともにガムテープを貼って防水する。
- ・新型：①左右のすきまにも補強材を入れる。前後に補強材を入れる。
②トイレットペーパー2個(芯を抜いてつぶしたもの)・ポリ袋を入れる。



★身近なものを使った応急手当

ストッキングを使用した頭のケガの手当の仕方やバスタオルやフェイスタオルを包帯の代わりに使う。端はガムテープで止めて、手当をした日時を油性ペンで書いておく。腕の骨折の手当ての仕方など。



★防災ずきん

- ・バスタオルにフェイスタオルを乗せて、袋になるように手縫いする。
(ポケットになるので、歯ブラシ・マスク・ガーゼハンカチ・下着・安全ピンなどを入れる)
- ・軍手・Tシャツ・靴下は、縫い付ける。
- ・中央にベルトを付けて、頭巾にしたり肩からかけられるようにする。



その他、外出時に持ち歩く「パワーズポーチ」など、アイディアが豊富でした。私たちの防災プロジェクトも各地の取り組みに学びながら、生活者としての視点を具体的な防災・減災の取り組みにつなげ、身近でわかりやすい講座の企画・出前講座を開催していきます。

7/5(土) 午後/災害時!トイレが使えない。その時あなたは?

編集後記

私たちは川崎市男女共同参画センター(愛称:すくらむ21)が呼びかけ集まった、市内在住の女性市民からなる公募型の「女性の視点でつくるかわさき防災プロジェクト」メンバーです。平成24年9月1日より活動を開始し、災害時に男女がともに自分の命は自分で守り、自助力を高めていけるよう生活者の立場から身近な防災・減災への取り組みの必要性や取り組み方の情報、知恵を集め、それを発信することを目的として、防災ニュースレターを発行しています。

※本防災プロジェクトは、平成26年3月に市民グループを発足しました。

※ニュースレターへのご意見・感想はこちらまで E-MAIL: womenbousai@gmail.com